

10月11日 熊本県益城町

熊本地震の復旧・復興の取り組みから学ぶ

ダブル直撃の被災の大きさと復旧、復興の経過

平成28年4月14日および16日に震度7の地震を受けた。14日の地震で持ちこたえた建物も16日の地震で倒壊した。使えなくなった益城町役場庁舎の大きな亀裂や議場の倒壊具合を目の当たりにし、被害の大きさを実感した。

熊本県の益城町・熊本市周辺は過去に大きな地震も少なく、住民の地震に対する防災意識が高くなかったことが地震直後の対応の遅れにつながった。その中で



▲益城町役場の渡り廊下。大きな亀裂が入り使用できない

も益城町役場の職員は、自らも被災者でありながら、昼夜を分かたず休暇も取らずに懸命に支援活動が続けた。一方で被災者は、ただ支援を待つだけの方が多く、支援に対する不満ばかりが増加していったとのこと。

また益城町では、4月16日の本震から11日目に「ましき災害FM」放送が開始された。しかし、被災者の状況を考えると、災害時の情報提供はラジオだけでなく、インターネット、無料Wi-Fiなど、複数の手段が必要だったようだ。復興計画策定に向けて、益城町長は「将来を見据え

10月12日 熊本県熊本市

災害から水道を守る取り組み

74万市民の水道水源のすべてを地下水で賄う熊本市。これは、人口50万人以上の都市としては日本で唯一、世界でも希少な都市である。この地下水保全の様々な取り組みが世界で高く評価され、平成25年国連「生命の水」最優秀賞を受賞、まさに、地下水は熊本市民の誇りである。

そこに平成28年4月、熊本地震が発生した。水源地等停止96箇所、水道管路漏水3597件、約32万6000世帯が断水とあった。市政始まって以来の大規模災害が起きた。水道に関しては、発災から1か月足らずで全国自治体の97事業体から約4300人が給水応援に

入り、約2か月後の6月22日までに応急復旧を完了させることができた。現在こうした地震の教訓を生かし、本年5月には、災害が発生した場合に迅速に水の確保ができるように、市内に井戸をもつ企業など52社と災害用井戸の協定を締結した。

今後高い確率での震災が想定される羽村市にとって、大変重要な情報を得た視察であった。



▲熊本市水道記念館を見学



▲熊本市水の科学館を見学



▲現在も熊本市の重要な水源

10月13日 熊本県宇城市

財政改革を実現した公会計制度

平成17年当時、宇城市は5つの町が合併したばかりで、財政状況は債務超過寸

羽村市で始めた期末仕分けによる総務省方式との違い

の割合が2対1に改善された。

宇城市の財政改革を支えた公会計制度は日々仕分けを基本としている。28年度予算からは、予算の段階から資産か費用かを選択することで、複式簿記の知識がなくても、自動的に仕分けができる仕組みを構築し、業務負担を軽減されていた。現在は現金預金も増やし、将来、街で必要となるものに予算を回す余裕が生じていることに感銘を受けた。

財務書類は作成することが目的ではなく、財政の実態を客観的に捉え、課題を見つけ解決することが重要であるとの学びを今後に活かしていきたい。

平成29年

行政視察報告



▲地震で石垣も大きく崩れた熊本城

の中から、日頃からの自主防災活動ができる組織づくりの必要性を痛感。63地区で40の自主防災組織をつくり、役場の職員任せにせず地域の人々の力を結集して支援活動ができる体制作りをめざしている。

一方、熊本市でも、地域の自主防災組織がこのような大災害時にいかに動けるかが課題で、住民と行政の連携した取り組みについて聞くことができた。防災訓練

は、展示・実技などを見る方式からマニュアルに沿って住民が動く方式にしていくこと。避難の仕方を具体的に決めておくこと。そのために避難所運営ゲーム(HUG)などは効果的であることなど、貴重な話が聞けた。

これら視察の経験を羽村市の自主防災力向上に活かしていきたい。

羽村市動物公園は、公立の動物公園として本年で開園40周年を迎え、昨年10月より大規模な工事が始まったところである。皆さまに親しまれる動物園としていくために調査を行った。また、タイプロモーションの観点から、先進地である東川町も訪問した。

10月4日 北海道旭川市旭山動物園

地域とともに 動物園を盛り上げる工夫を積み重ねて

危機に瀕した公立の動物園が、皆の努力によって蘇る物語を、一度は見聞きしたことがあるのではないだろうか。テレビドラマや映画にもなったその舞台が、旭山動物園である。

今回の視察では、小さな工夫の積み重ねや地域のサポートの様子を中心に調査を行った。その最たるものが、飼育員のプレゼンテーション。今では全国の動物園で実施されているが、旭山動物園が最初だとのこと。



旭山動物園のアザラシは泳ぐ姿を間近で見られる

各ブースでのワンポイントトークから徐々にレベルアップしてきたそうだ。また、動物の素晴らしい能力をどのようにお客様に伝えるかの工夫もされていた。レッサーパンダの獣舎では、上部を開放して木を渡し、外の樹木と連結させて、見学者の上を行き来するようにしていた。柵の中の動物を見るのではなく、木の枝を渡る自然に近い動

行政だけでなく、動物園を地域で盛り上げていく姿に、羽村市でもその気運を高めていければと強く感じた。

10月3日 北海道東川町

世界に向け 「写真文化首都」宣言 写真甲子園を開催

羽田から旭川空港を経て2時間。北海道中部、旭岳のふもと自然豊かな農業と林業のまち、東川町は「写真の町」を掲げている。開拓民の苦難を写真に刻んできた歴史を持ち、今では写真で地域の魅力を発信、「自然十人十文化」で活力を生み出している。

7月末の1週間、町内では写真展、シンポジウム、撮影会、写真機材展示会が開かれ、全国から写真愛好

家やメーカーが集まる。その目玉が、高校写真部の全国大会「写真甲子園」。今夏の第24回の予選には526校が参加。地方審査を勝ち抜いた18高校の各3人が東川町で5日間合宿撮影。自然や町民にレンズを向けてスナップに駆け回り、プロ写真家の審査で最優秀高校が選ばれる。ボランティアで駆け付けるOBも多く、町職員として移り住んだ人もいるという。

魅力発信人口1割増加 子育て支援も充実している。伝統の木工細工を活かし、1歳と中学卒業の子どもにオリジナルの椅子を贈る「君の椅子」プロジェクトも、写真を通して

全国に発信される。こうした取組みで7000人割れの人口が20年で8115人と1割以上の増加だ。開拓から120年目の2014年には「写真文化首都」を宣言。写真を通して世界の人々をつなぐという。10月の東京国際映画祭



東京国際映画祭で上映された「写真甲子園0.5秒の夏」のポスター

では東川町を舞台にした「写真甲子園0.5秒の夏」が封切られ、全国上映。新たな出会いを生んでいる。

常に改革の意識で 市民に愛される 先進的動物園

札幌市円山動物園は、昭和26年に、北海道で初めての動物園として開園した、歴史ある動物園である。

開園以降、徐々に動物や施設を増やし、札幌市民の代表的なレジャー・レクリエーション施設として発展してきた。

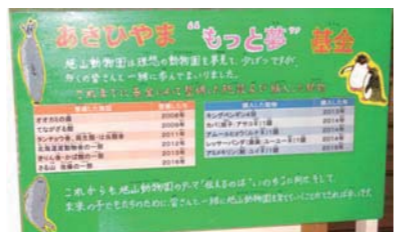
しかし、レジャーの多様



円山動物園で人気のチンパンジー・アッキー君。近親交配を避けるため一人暮らし。

化や施設および展示方法の陳腐化等によって、入園者の減少傾向が続く。また、マンネリ化による職員の意識低下が見られるようになっていたそうだ。

こうした状況を打破しようと、市民、経済界、教育界などから人材を集めた委員会を設置し、約半年間の議論を経て、平成19年に「円山動物園基本構想」が策定された。その主な内容は、
①「わたしの動物園」と市民が自慢できる動物園



旭山動物園では民間事業者や団体、一般の方からの寄付が大きな助けになっている

旭山動物園。頭上を通るレッサーパンダに入園客は大喜び



動物とのふれあいを通じて感動体験ができる。地元に住む野生動物を見ることができる。運営への市民ボランティアの関わりを重視する。

②生物多様性の確保に資する資する動物園
北海道の野生動物の自然復元、札幌の原風景を取り戻す活動に取り組み。
③持続可能な経営
施設・展示方法の改善やイベントの充実などで来園者を増やす。収入増・経費

削減に努める、などである。また、今後は、時代の要請である「種の保存」「動物の福祉・愛護」に配慮した、より質の高い施設整備や動物園運営を見据えて、「ポスト基本構想」の検討が続けられているとのこと。

10月5日 北海道札幌市円山動物園

10月10日 新潟県長岡市 生ごみバイオガス発電センター

生ごみから 電気をつくる

新潟県長岡市の生ごみバイオガス発電センターは、各家庭から分別収集した生ごみを発酵させてバイオガスを発生させ、そのガスを燃焼させることで発電する施設である。

羽村市では、生ごみは「燃やせるごみ」として収

集し、西多摩衛生組合で焼却処分をしているが、家庭から出る「燃やせるごみ」の約60%は生ごみで占められている。生ごみの減量化は羽村市にとっても重要なテーマで、生ごみ処理機やコンポスト容器などの購入費用の一部を助成したこと

平成25年に生ごみバイオガス発電センターを稼働させた。その仕組みは、分別収集した生ごみを破碎し、不適当な物除去の上、隣接の下水処理場からの希釈水と混合して、微生物の力でメタン発酵させて、バイオガスを発生させる。さらにガスホルダーに貯蔵したバイオガスを燃焼させて、ガスエンジン発電機を回して再生可能エネルギーの発電を行う。また、発酵残渣は乾燥させて、バイオマス燃料として

売却しており、循環型社会を実現したシステムとして、大いに評価できる。



▲生ごみバイオガス発電センターのガスホルダー



▲発電センターの内部を見学

10月11日 新潟県柏崎市 新潟県放射線監視センター

放射線を監視する 新潟県の施設

放射線監視センターは、柏崎刈羽原子力防災センター（オフサイトセンター）に併設され、原子力

発電所の10 km 圏内の空間放射線の常時監視や、雨水・浮遊塵・大気・河川水・飲料水・土壌・農畜産物・海産物など、数多くの環境資料中の放射能分析を行い、公表している。

監視センターには、緊急時に放射性物質の拡散状況を予測するSPEEDIシステムや、固定型

空気を取り込まないための厳重な防壁がなされ、二重の扉や除染室があり、トイレにもフィルターが設置されていた。

10月11日 新潟県柏崎市・刈羽村 東京電力柏崎刈羽原子力発電所

世界最大の 原子力発電所

東京電力柏崎刈羽原子力発電所は、新潟県柏崎市と刈羽村の境界地区に建設されている。再稼働されると、東京都など関東地区に送電されることになる原子力発電所である。

1985年から1997年までに、1号機から7号機までの原子炉が建設され、広さ420万平方メートル、出力821万2千キロワットの

鉄線で囲われ、外部から構内、構内から建屋内へと進む度に、独自システムによる二重チェックがあった。福島第1原発の事故の教訓を踏まえた、新たな安全対策や新規制基準について、視察した。



▲柏崎刈羽原発内で説明を受ける

過酷事故の教訓を 踏まえた安全対策

原子炉は現在、7基全てが停止中である。東北地方太平洋沖地震では、マグニチュード9.0の地震が発生し、福島第1原発の足下は6.0強の地震に襲われ、原発はレベル7の過酷事故を起こした。この事故を踏まえた新規制基準では、「原子炉が爆発しメルトダウンするような過酷事故防止」が新設され、炉心や格納容

器の損傷・破損防止対策、放射性物質拡散防止等が求められた。「津波対策」では、防潮堤の建設やかさ上げ、水密扉等による原子炉建屋への浸水防止、などが加わった。「屋外施設」では、淡水・海水の確保、緊急時の放水や電源の確保のため、専門の大型重機や車両が配置され、東京電力社員が運転免許を取得し、定期的に訓練しているとのことだった。



▶柏崎市の全家庭に配布されている防災ガイドブック。赤が自然災害編。緑は原子力災害編

柏崎刈羽原発は、年間3万人の視察があるとのことだった。原発建屋や原子炉の多重防壁、オフサイトセンターの機能を実際に見ることで、放射能対策・環境対策の現在状況を知ることができ、意義深い視察となった。

人が働いている。セキユリティも非常に厳しく、周囲は有刺

しぎかいカレンダー

● 3月定例会の予定 ●

日	月	火	水	木	金	土
2/11	12	13	14	15	16 陳情 [△]	17
18	19	20 議運	21	22	23	24
25	26	27	28 本会議	3/1 本会議	2 本会議	3
4	5 予特 (補正)	6 本会議	7	8 常任委	9 常任委	10
11	12	13 予特	14 予特	15 予特	16	17
18	19	20	21	22	23 本会議	24

- 陳情[△]…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
- 議 運…議会運営委員会
- 常任委…常任委員会（総務、経済、厚生）
- 予特（補正）…一般会計等予算審査特別委員会
- 予 特…平成30年度一般会計等予算審査特別委員会

*会議の予定は変更になる場合があります。
詳細は議会事務局までお問い合わせください。

議会を見よう！知ろう！

～次の定例会は2～3月～

本会議でどんなことがどのように話し合われているのか、様々な手段で知ることができます。皆さんの暮らしに直結していることばかりです。ぜひご覧ください。

- 1 議場で傍聴 ーライブで！**
当日、直接議場へおいでください。
- 2 ケーブルテレビで生中継**
TCN多摩ケーブルネットワークで、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。
- 3 インターネットで録画中継**
開催日の3日後から、インターネットで録画中継を見ることができます。
- 4 会議録で読む**
議会終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見ることができます。

羽村市公式サイト

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



編集後記

平成28年8月の大型台風に続き、29年10月にも大型台風21号、22号と連続で発生し、市内にも被害が発生しました。そのため、12月議会では、土砂、水害、避難所等災害対策について多くの議員から質問が出されました。

これまで、議員の質問内容を議会広報紙からリアルに映像で発信できないか、議会改革の中で議論してまいりました。その結果、2月1日号からQRコードを掲載することにになりました。質問した議員の欄の片隅にそれぞれ掲載されているQRコードをスマホのアプリで読み込むと、質問内容を映像でも見ることができます。

(西川)

【広報委員会委員】

小宮 國暉 (委員長)
山崎 陽一 (副委員長)
浜中 順 印南 修太
富松 崇 中嶋 勝
大塚あかね 西川美佐保

発行／羽村市議会 編集／広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042(555)0889
Tel 042(555)1111 (内線412～414、416)



「ぎかいのトビラ」は再生紙を使用しています。